

RI第 2820 地区

水海道ロータリークラブ



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012年度 テーマ

相互の理解と
地域との つながり

2011-2012 年度 RI会長
カルヤン・パネルジー

次回例会予定 9月14日 会長・幹事会報告 他
9月21日 移動例会(納涼会)

VOL. 49 No.9(通算No. 2290)

2011年9月7(水)例会プログラム

点 鐘

君が代・ロータリーソング

ビジター紹介

出席報告

SAA報告

諸 報 告

幹事報告

会長挨拶

外部卓話

RI第2820地区 地区ローターアクト代表

浅香 美紗様



「浄蓮の滝」

写真提供:石塚幸一郎会員

2011-2012年度

会長 大塚 令昌

幹事 斎藤 広巳

創立 1963年9月25日

《例 会 場 ・ 例 会 日》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 2790

常陽銀行水海道支店内 3F

毎週 水曜日 12:30~13:30 ☎ 0297-22-1251

《事 務 所》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 3386

釜久ビル 3F

Tel.0297-30-0875 Fax0297-30-0876

E-mail mitsu-rc@lapis.plala.or.jp

URL <http://www.mitukaido-rc.jp/>

9月は新世代の為の月間です
THE WEEKLY REPORT

例会報告 Vol.49 No.8 (No.2289) 8月31日(水)曇り (司会 染谷正美委員長)

本例会での主な事項

☆会長挨拶

☆ 会員卓話

誕生祝

《配偶者》石塚(利)会員

表彰 ロータリー財団マルチプル



古谷榮一会員

諸報告

雑誌委員会 瀬戸隆海委員長

ロータリーの友「9月号」の紹介

横組み P4～P14 「新世代のための月間」

P20 ロータリー、多岐にわたる活動

P22 土用の丑の日「被災者にうなぎを届けよう！」

P26 ロータリーの綱領の和訳について2

P32 ロータリー米山記念奨学事業の基礎知識 ー寄付金・財政編ー

P34 ロータリーソング

縦組み P2 女性を活用できない会社に未来はない！

ご一読いただければと思います。

幹事報告 斎藤広巳幹事

週報受理クラブ 竜ヶ崎RC

例会変更通知 竜ヶ崎RC 9月13日(火) 午後6時30分より 松泉閣

9月27日(火) ガバナー公式訪問 喜仙

会長挨拶 大塚令昌会長

本日は「希望」と「前進」の花言葉を持っているに花について、お話をさせて戴きます。

花には「届ける心」「育てる心」「創る心」の三つが卓されているようです。



9月は新世代の為の月間です

THE WEEKLY REPORT

この花と申しますと、ガーベラです。ガーベラはキク科ガーベラ属に属する植物の総称で、毎年花をさかせる多年草です。南アフリカ原産で、発見者であるドイツ人の自然学者のゲルバー(Gerber)の名前から名付けられたそうです。日本へは明治末期に渡来しましたが、花期が春から秋までと長く花色もピンク・アカ・シロ・キイロ・ミドリ・オレンジ等豊富にあることから、鉢植えや切り花用の花として広く親しまれているようです。

会員卓話

鈴木邦彦会員増強委員長



先々週の例会で、会員増強月間に因んで、チャーターメンバーの隅屋会員、パストガバナー北村会員、長老の青木会員のミニ卓話を頂きました。ロータリアンとしての長い経験を通しての、日頃余り聞く事のない三人の夫々のロータリーについての話を聞く事が出来、これからのロータリー活動に活かしたいと思います。

長塚 暁会員



昭和44年に父が亡くなり、私が33歳の時、暫らくしてから、豊島正道先生からロータリーに入会するよにとの連絡がありました。昭和51年春、豊島先生よりもうボツボツヨカッペナと言われ、入会をお願いしました。昭和51年5月19日の例会に初めて出席。会長は、東郷道行様でした。例会で挨拶をさせられ、会長より長塚君は、SAA委員会に行きなさいと言われました。この時の委員長が寺田さんでした。

昭和61年、寺田さんが23代会長に、私が幹事に。これも寺田夫人が同級生であり、奥様から……………

私が幹事の7月に、万博会場にロータリールームが出来ており、水海道クラブも例会を行いました。お客様が多く忙しい思いをしました。8月に寺田さんが入院され、次期会長の隅屋さんが会長代行を務める事になりました。

255地区では、この年度はガバナーが栃木県でしたので、会長・幹事会は宇都宮で行われ泊りがけでした。

33代会長には、鈴木巳代治さんに決まっておりましたが、12月になって健康上の理由で退会され、私に会長がまわって来ました。心の準備も出来てないままに。

と、色々な思い出がたくさんありました。

飯塚三夫会員



皆さん、こんにちは。戦後66年、今年の8月も今日で終わろうとしています。私もこの8月で82歳になりました。会員の皆様方には私より少し年配の方も居られますが、殆んどの方が戦争を知らない若い方ばかりのようですので、66年前の私の戦争体験について少しお話したいと思います。

66年前と言えば私も15,6歳位でしたし残された記録も御座いません。当時の記憶を頼りにお話する訳ですので、記憶違い、或いは忘れてしまった事等沢山あると思いますが、出来るだけ正確にお話する様努めますのでご容赦頂きたいと思います。

昭和20年1月半ば、私達旧制中学3年生、約120か30名は、学徒動員で横須賀の海軍工廠に行きまし

9月は新世代の為の月間です

THE WEEKLY REPORT

た。其処での宿舎は木造2階建ての大変粗末な物でした。真ん中が廊下で其の両側が10畳か12畳位の部屋になっていて1部屋に10人ずつ入れ其れを1分隊と呼び、私は第9分隊でした。ぼろを編み込んだ様な毛布に藁の敷布団で、寒さに耐えるのが大変でした。

一番辛かったのは食事が少なく一人中空腹な事でした。そういう毎日の中で一番の楽しみは日曜日に誰かのお父さんかお母さんが交代で沢山の食べ物を持って面会に来てくれる事でした。其れを皆で分かち合い動けなくなるほど腹いっぱい食べました。

此れが当時の私達には最高の楽しみであり喜びでした。あの頃の交通事情では、茨城から横須賀まで大きな荷物を持って一日で往復するのは大変な事だったと思います。

私の母は割とひ弱だったので横須賀までは到底来られない氏、来てくれないと思って居ました。其の母が大きな荷物を持って横須賀まで面会に来てくれました。何カ月振りかで母と再会した私は、母の瞳の其の奥に湛えられた限りなく深い母の愛と優しさに触れて「母ちゃん」と言って其の俛、母の胸に飛び込みたい衝動に駆られるのをこらえ、目頭に込み上げてくる熱いものがこぼれそうになるのを、友人に悟られまいと耐えるのに必死でした。

私達第9分隊10人の中には、疎開して来た水海道中学に入り其のまま学徒動員で私達と一緒に横須賀に来た角野という学生が居ました。ですから角野とは横須賀に来て初めて学友として一緒になった訳です。

彼はとっても良い奴でした。すっかり皆と仲良くなり3年も前からの友達とちつとも変わりませんでした。私も彼の真っ直ぐな真面目な性格が大好きでした。これからのお話しはこの角野が中心になっていくことになります。

ある晩角野のお父さんが初めて面会に来ました。全員廊下に集められ先生から紹介が有って、角野のお父さんから挨拶が有りました。

「私は勤め人で今晚も会社から直接此処に来ました。皆さんのお父さんお母さんの様にお家から食べ物を持って来ることが出来ません。其れにも拘わらず皆さんには何の分け隔ても無くお付き合い頂き、食べ物も一緒に分けて貰い本当に有難う御座います。」

この様な事を目に光るものを宿しながら話して居ました。

そして何回も何回も頭を下げていました。

御挨拶が終わって角野のお父さんが私達の部屋に来ました。「皆さん何時も有難う、こんな物で申し訳ないけど今日配給になったものを食べずに持って来ました。皆さんで食べて下さい。」と言ってポケットから1個小さな蜜柑の缶詰を出すと私達の前に置いて行きました。

其れからが大変でした。「直ぐ食べよう。」と誰かが言った。「いや駄目だ、何か良いことが有った時に食べよう、其れまで取って置こうよ。」と意見が分かれしました。結局、蜜柑の缶詰は誰も手が届かない高い所へ行ってしまうました。

皆反対はしましたが食べたいのは誰も同じ結局、缶詰は下に降ろされました。皆車座になって缶詰の中から1粒ずつ蜜柑を取り次へそして次へと廻しながら大事に大事に食べました。

其の時私達はとんでもない不幸が明日に逼っているとは知る由も無く缶詰の美味しさに満足しながら眠りに就きました。

そして翌日横須賀は良いお天気でした。何時頃だったろうか私達の見上げる頭の上を飛行機が1機、銀色に輝きながらゆっくりと海の方に向かって飛んで行きました。

「あれは敵の偵察機だ。間も無く空襲が有るかも知れない。」何処からかそんな声が聞こえました。其れから何時間か経ちました。突然工廠内の大きなスピーカーから空襲警報のサイレンと共に放送が有りました。

「目下敵小型艦載機約40機編隊は衣笠上空に在り、間も無く当上空に到達の予測なれば、各員一層の防空体制を望む。」と繰り返し放送されました。

9月は新世代の為の月間です

THE WEEKLY REPORT

当時の横須賀は要塞地帯で空襲は無いものと誰も思って居りました。事実これまでに空襲を受けた事等一度も有りませんでした。ですから私は空襲の恐ろしさを全く知りませんでしたので、スポーツ観戦か、お芝居見物の様な軽い気持ちで、観戦するのに一番良い場所を探しました。高さ数10mの断崖絶壁に深さ2、3mの掘り掛けの穴がありました。崩れた大きな石が前に在って中が窪みになっている最高の場所でした。数10m先には3連装の機関砲で全艦針鼠の様に武装された当時の日本帝國海軍が誇る、戦艦長門の全容が、やや左手には武装中の駆逐艦初桜が見渡せました。私達はわくわくする胸を抑え7、8人でその穴に入りました。

一発の銃声もなく不気味な静けさの中で時は流れました。と、突然前方の空に黒い小さな塊の様な物が幾つも幾つも見えました。どんどん此方に向かって飛んで来ます。其れが綺麗に編隊を組んだ敵の艦載機だと識別できるのにそう時間はかかりませんでした。

戦艦長門の機関砲はその艦載機に向けてびたりと照準を合わせて居ました。未だ双方から一発の銃声も聞こえません。と、突然綺麗に編隊を組んでいた敵機が突然ばらばらになり急降下して来ました。同時に双方から一斉射撃が始まりました。其の騒音の物凄さは書く事も話す事も出来ない凄まじいものでした。敵機は明らかに戦艦長門と駆逐艦初桜を狙って機銃掃射と爆弾攻撃をして来た様でした。狙いが外れた爆弾や機銃掃射が私達の居る処へ飛んでくるものですから堪ったものではありません。

全く生きた心地がしません。怖くて怖くて全身がガタガタ震えて止まりませんでした。

誰もが少しでも体を低くしようと窪みに頭と体を突っ込んで機銃掃射から逃れ様としました。

目と耳を両手で覆い、口を開けて鼓膜が破けたり目をやられるのを防ぎました。口の中は硝煙と砂埃でじりじりでした。何分ぐらい時間が経ったのか解りません。突然、震えがびたりと止まりました。其の時私は「俺はもう此処で死ぬんだな」と思いました。

家の事、故郷の事、父や母の事、色んなことが走馬灯の様に浮かんで消え浮かんで消えて行きました。と、その時凄まじい爆発音がしました。私は思わず頭を上げ音のした方を見ました。殆ど同時に折り重なって居た一人が私の前に頭を上げました。途端彼の右目は飛んで来た破片に飛ばされ噴き出す夥しい血に私の左顔面は真っ赤、着て居た洋服も真っ赤になってしまいました。誰か叫びました。「早く手拭いか何かで目を押さえろ！」

彼は手拭いを持って居ませんでした。被っていた帽子で目を抑えると起きあがって仕舞いました。怪我のショックで怖さを忘れてしまったのだろうか。ほんの少し敵の攻撃が静かになりました。私達の中に一人兵隊さんが居て体が竦んで動けなくなった私達に、「今だ、逃げろ！」と声を掛けて下さいました。助かりました。夢中で防空壕に駆け込みました。

電源がやられたのか中は真っ暗でした。右手の方に何十メートルか入った所で地べたに、ぺたんと座りました。其の時私はもう一人の友達と手を繋いで居ました。「あれ、角野が居ない、角野何処に居る！」と叫びました。「此処に居るよ、大丈夫だよ」と直ぐ目の前から声がしました。角野との会話は此れが最後でした。突然大きな音がしてお尻が30センチも跳ね上げられました。「直撃だ！」と大きな声で叫ぶ声がしました。石のトンネルも大きな音を立てて中から崩れ落ちあれこちから悲鳴がしました。私と、もう一人の友達は傍らにあった台の下にもぐり、辛うじて助かりました。

其のトンネルに居た人はほとんどやられたみたいでした。暫らくして何処かの組長さんが懐中電灯の明かりを頼りに空襲警報解除の連絡をして来ました。私はもう一人の友達と夢中で外に出ました。まるで地獄絵でも見る様な酷い死体を幾つも幾つも踏み付けながら心で御免なさいと謝って居ました。

私達の前に居た筈の角野は其の晩とうとう帰って来ませんでした。翌日私は昨日の防空壕へ先生始め助けに来て下さった方たちを案内しました。

でも私は其の防空壕の中には二度と入れませんでした。角野の遺体は担架で運び出されました。此の後私は此の防空壕に二度と近づくことは有りませんでした。

細い山道を登った所に焼き場が在りました。其処には沢山の棺箱が重ねて置かれてありました。突然に

9月は新世代の為の月間です THE WEEKLY REPORT

余りにも多くの方が亡くなったので棺箱作りが間に合わなかったのだと思います。荒削りの板は隙間だらけで其の隙間からどす黒い血が滴り落ちて居ました。幸い角野の遺体は大した傷も無く綺麗だったのが、せめてもの救いでした。

小さい骨壺に入った角野は急造の仏壇に飾られ、お坊さんに御経を上げて戴きました。

突然の訃報を受けて飛んで来た角野のお父さんの姿が、蜜柑の缶詰を持って来てくれた時のお父さんの姿が重なって、私は言葉に出来ない侘しさ悲しさに泣けてきそうになる気持ちを抑えるのが大変でした。

此の後、間も無く広島、長崎に原爆が投下され日本は終戦への道を迎える事になりますが、私もこの辺りでお話を締めたいと思います。

簡単に人を傷つけ人を殺す戦争はしてはいけないもの、テレビドラマや映画では推し量ることの出来ない残酷なものと言う事を此れまでのお話の中ら少しでもお汲み取り頂けたら幸いで御座います。

有難うございました。

松坂興一会員 ロータリー雑感(いろいろ想うこと)



私が当クラブに入会させて戴きましたのは、1978～79年度第16代白井豊栄会長の時でありました。

推薦者は武藤正之会員とクラブ幹事でありました増田三郎会員であります。

当時私は、ロータリークラブについて、まったく無知であり、団体としての存在すら知りませんでした。突然お二人がお見えになり、入会を勧められた訳ですが、武藤会員とは釜久本店の社長でありいろいろお世話にもなり、存じ上げておりましたが、増田さんとは、時折釜久さんでお見かけする程度で、大先輩としての認識しかありませんでした。

従いまして、丁重にお断り申し上げたのですが、重ねてのお勧めがあり、正直嫌々入会いたしたわけがありました。それからというもの三年間位というもの、出席はするものの、話し相手もないまま、又例会ではセレモニーが大半を占めて話題もないままに、ただただひたすら我慢の日々でありました。

そうした日々にも有りまして、今持っても深く印象に残る出来事もありました。それは入会して最初の例会出席の時でありました。例会後、残る様告げられ、およそ一時間程度のロータリーについての講義を受けたのでありますが、それは次週にも行われました。今、思い出してもどの様な講義であったか、全く定かではありませんが、講義をして頂きました鈴木喜一郎会員の言動は誠に立派の一言に尽きるものでした。子供ほど年の違う私に対し、謹厳ではありましたが、優しい口調で丁寧に話を進められました。

後に、此のことを思い出す度、ロータリアンたるものの資質について、己に対して問いかける大きな指針となりました。とは申せ、例会に於ける無為な時間をどう過ごすかは、苦痛以外の何物でもなく、水曜日が来るのが恨めしく思えたものでした。

そんな私が何と無く、ロータリー活動に関心を持ち始めたのは、入会して五年目の創立20周年を迎えてのことでした。増田三郎会長のもとで、運転手代わりとして会長のお供で御一緒させていただいたことあります。記念事業として彫刻を市に寄贈することになり、笠間にありました、制作者の富樫 一先生のアトリエに度々お伺いしたその行き帰りの車中でいろいろと話をすることがあり、ロータリーに対する認識と興味を感じる様になりました。

それから6年後の竹村菊雄会長のもとで、クラブ幹事を仰せつかり創立25周年記念事業を執行部の一員として、全面的に関わることになりました。

実行委員長に豊島勝之助先生をお願いいたし、準備万端すべて整った訳でありましたが、丁度此のとき、昭和天皇のご病気が大変重い状態で 果たして祝賀の式典が行われて良いものやら危惧されたわけがあります。結果としては、陛下は崩御なされ地区として全ての式典が中止となりましたが、当時鹿島臨海

9月は新世代の為の月間です

THE WEEKLY REPORT

クラブ選出の平輪憲治ガバナーの事務所に会長、実行委員長共々お伺いいたし、協議を重ねたことなど懐かしく思い出されます。

その後、北村 仁会長年度に創立30周年記念事業並びに式典が行われました。25周年を中止したこともあり、盛大に行われた訳ではありますが、実行委員長の片倉 力会員の依頼により、北村会長とご相談を重ねながら実質的な実務を務めさせて頂きました。式典当日の実行委員長の挨拶文の草稿に至るまで代行させて頂きました。片倉委員長さんは、大変度量の大きな、おおらかな方で30周年事業が盛大かつ立派に行われ、地区内においても高い評価を得ましたのも、そのお人柄によるものと、私にとりましても大変貴重な経験となりました。今もって感謝致しております。

さてその2年後の94～95年青木全弘会長年度に竜ヶ崎クラブから木村 功さんがガバナーに選出され、突然降ってわいたような地区副幹事への要請があり、無理やり引き受ける羽目となりました。

そればかりではなく、何と前代未聞当クラブで地区協議会を引き受けてもらえないかとの強引とも思える依頼があり青木会長さんにご相談申し上げたところ、いったんは断るということになったのですが、再度にわたる要請にほだされ引き受けることとなりました。

9つの会場捜しから始まり、800食を超える弁当の用意、手配に至るまで、大変な騒ぎとなりましたが、後にこの経験が大いに役立つことになるわけでもあります。それにいたしましても、青木会長さんが良くぞお引受け頂けたものと、感謝致しております。

それから3年後、私の会長年度となり35周年事業が行われる訳ですが、30周年をしっかりと立派にやったせいか、印象が薄く、それよりも強烈に印象に残っているのは、当クラブに対して、地区よりガバナー選出要請が初めてあったことでもあります。早速選出の為の特別委員会を設けて選考にはいったのでありましたが、唯一の候補者北村会員に、困難な事情があり選出には至りませんでした。これが伏線となり、後に当クラブより北村会員がガバナーに就任することになる訳であります。私にとりましては深く印象に残る出来事でありました。それと今一つは、小島会員に幹事を務めて頂いたことでもあります。

皆さんもご承知の通り、小島さんは大変に心配り、心配りの行き届いた方です。

まことに不行き届きな、また大変アバウトな会長を支えて、日夜大変なご苦勞をおかけしたわけですが、愚痴一つ言わずいつも笑って、支えてくれました。大きな声では申せませんが、間違いなく女房より数段役に立つ存在であります。この場をお借りいたしまして、あらためまして心より御礼申し上げたいと存じます。誠に有難う御座いました。今後もよろしくお願い申し上げます。

さていよいよ2000年にはいり当クラブより北村ガバナーが選出されました。私も地区幹事として裏方を務めることとなりました。これから2年4か月にわたるガバナー事務所の運営に関わることとなるわけでもあります。当時第8分区の分区代理を務めており、二足の草鞋をはく有様でしたが、元気一杯なスタッフにめぐまれて、テンション高くスタートいたしました。この2年4か月にわたるガバナー事務所の思い出は数多くいつか機会があったおりに、北村さん始め関わった人たちともども話が出来たらと思っております。

この年度の39代会長さんは小島富雄会員で会長が先頭にたって、クラブ一丸となつての支援が行われました。田中正躬会長のもと40周年を、大串 卓会長年度で45周年が立派に行われたのは、記憶に新しいところです。そして来年50周年を迎えようと致しております。すでに鈴木 豊実行委員長のもと着実に準備が行われており、青木正弘会長年度はクラブ創立以来半世紀を迎えて一大イベントを行う記念すべき年となる訳であります。大いに期待致しております。

こうして33年間のロータリー生活とでも申しましようか、振り返って見ますと入会以来、偶然にも節目、節目に於いて様々な事例にかかわってきたことが思い出されます。

改めて私にとってロータリークラブとは何かと問いかけてみると、私がこの水海道の地に、病院を開設して43年になりますが、丁度10年が経過した41歳のときに入会させて頂いたわけでもあります。従いましてその大半をロータリーと共に過ごした訳であります。

私にとりまして、ロータリークラブとは単なる奉仕団体などではなく、まさに人生に於ける修練の場であり、

9月は新世代の為の月間です
THE WEEKLY REPORT

自己研鑽の場でありました。この場で教えられたものは、数限りなく貴重な道標となり足元を照らし続けてくれました。特にロータリアンであるが故に、知り合う事が出来た人達は掛け替えのない私の財産であります。私は今ロータリアンであることを心から誇りに思っております。

水海道ロータリークラブ万歳！

出席報告 (登坂 寛委員長)

会員総数	出席者数	欠席者数	賜暇	メーク	出席率
56名	45名	11名	0名	11名	100.00%

ニコニコボックス 五木田裕一副委員長

入金計 ¥51,000 累計 ¥494,000

誕生祝御礼<<配偶者>>石塚(利)会員

第1回の会長・幹事会が終了致しました。 大塚会員

常総市地区対抗ゴルフ大会無事終了しました。 斎藤会員

本日卓話をやります。よろしく。 飯塚・長塚 各会員

卓話を仰せつかりました。拙い話ですが、宜しく願い致します。 松坂会員

あの頃君は若かったシリーズ卓話、楽しみです。 青木(正)会員

卓話楽しみにしています。 染谷(秀)会員

室伏選手、ハンマー投げ81m越えでの優勝おめでとうございます。来週欠席します。 白井会員

台風が心配です。 福田会員

息子が無事ツウンバから帰国しました。会長・幹事・国際奉仕の皆さん、お世話になりました。

北村(英)会員

先週欠席し、娘がオーストラリア派遣学生でお世話になりありがとうございました。 松崎会員

来月1カ月お休みします。 鈴木(茂)会員

本日早退します。 五木田(利)会員

休みが続きました。 染谷(正)会員

例会欠席しました。 石塚(利)・古谷・古矢・武藤

先週休みました。 島田会員

本日、鈴木委員長の代りをさせて頂きます。宜しく願い申し上げます。 五木田(裕)会員

会報委員会

青木清人委員長

松崎隆司副委員長

石塚幸一郎委員